

FOCUS

男の育児  
バイブル From UK

THE ESSENTIAL DAD MAG  
JAPAN

[エフキュージャパン] 特別定価 500円  
2015 SPRING ISSUE

FOCUS ON SUPER DAD

ジョニー・デップ  
JOHNNY DEPP

ケビン・コスナー  
KEVIN COSTNER

INTERVIEW

フットボールDAD

中村憲剛

DAD'S BUGGY SELECTION

全方位モニタリング!!

父親のためのベビーカー選び

特集 育児も、仕事も、うまくいく!

ワーク・ライフ・バランス  
WLBを実現する  
チーム術

働き方が変わる「保育環境」

WORK & LIFE「効率化」アイデア / WLB成功企業インタビュー

WLBを実現するチーム術

UK発男の育児バイブル

## 株式会社ウィルド

代表取締役

大越賢治さん



## お互いの家族やプライベートを思うことが本質的な働き方の改善に繋がる

株式会社ウィルドは、2015年1月、東京都主催の「ワークライフバランスフェスタ東京 2015」において、「東京ワークライフバランス認定企業（長時間労働削減部門）」にて表彰された。システム関連の受託業務という性質上、放っておけば長時間残業をいとわず勤務するスタイルが蔓延してしまふ可能性も大きく、以前は深夜残業をする社員も存在したという。しかし、いくつかの具体的な打開策をもって、慢性的な長期間勤務を回避することに成功した。

代表取締役の大越賢治さんは、自身も父となり、独身の若手として入社した社員たちが家族を持つようになる中で、家族との時間を犠牲にして残業するスタイルに疑問を持ち始めた。

ウィルドの施策の大きな一つが「時間の使い方を見える化」したこと。自社作成したワークライフシナジー実現サポートツール「WYNN」を利用し、毎朝その日にやるべきタスクをスケジュール形式で申告、終業時にその日を振り返り、それぞれのタスクにかかった時間、できたこと、できなかったことを報告する。

「WYNN」上でそのタスクに実際にかかった時間と最初に見込んだ時間の乖離が、ぱっとビジュアルで見られる。このタスクの達成度合いを社員と管理職とで検証し、「なぜできなかったのか」「もっと効率的に時間を使えなかったのか」などを相談し合い個々のタイムマネジメント力を身に付けていったという。

また、個性的なのが、毎週火曜日に一度の「おやつタイム」。これは、毎週ちよつと趣向を凝らしたお菓子を用意して、全社員が互いのプライベートなどについてフランクに懇談する時間だ。小さな子供を持つ社員が、懇親を目的とした飲み会に参加できないことに対する配慮でもある。

「こうして家族のことや社外での顔を知ることで、お互いのプライベートを尊重し、それぞれが早く帰れるよう助け合えます。結果、業務効率もアップしました。」（大越さん）

10名規模だから施策やポリシーが浸透するとも捉えられるが、逆に、10名規模で顧客からの要望に答えながら業務を効率化するのには難しいともいえる。施策を遂行して結果を出す決め手とは、「楽しい気持ちで取り組める施策しか残らないので、社員全員で楽しく取り組める工夫をすることですね」（大越さん）

### COMPANY DATA

#### 株式会社ウィルド

創業	2006年	資本金	1,000万円	従業員数	12名
所在地	東京都台東区台東3-12-5	HP	wyrd.co.jp	http://ワークライフバランス.みんな	
事業内容	ITコンサルティング、Webシステム開発(Ruby on Rails)				

### PROFILE

#### KENJI OHKOSHI

前職のシステム受託会社時代は官公庁系のシステム構築の仕事で、深夜タクシーで帰宅することも。作業が明け方まで続いた日には、サーバー室に段ボールを敷いて仮眠することもあったという。しかし父になり、経営者として社員が家族と過ごす時間を意識するように。

## COLUMN



### 多様な働き方を支援するための企業の枠を超えた取り組み

全国の企業で研修・セミナーを開催してきたNPO法人ファザリング・ジャパン(以下FJ)は、多様性のある働き方をマネジメントできる管理職「イクボス」を養成すべく、イクボス養成に積極的な企業と共に「イクボス企業同盟」を設立した。

FJ代表・安藤哲也氏は、2014年12月10日に行った設立発表の記者会見で、設立の趣旨について「現在の管理職世代は、若い頃から無制限に働いてきた人が多く、育児や親の介護、病気などで時間制約のあるいわゆる“制約社員”のマネジメントは手探り状態。同盟の設立で企業の枠を超えて協力し、『イクボスのあり方』『イクボス養成のノウハウ』を共有して、企業社会におけるイクボスの増加を加速させること」と語った。

発足時、加盟企業は11社だったが、2015年2月現在で15社が加盟。今年中には50社の加盟を目標に掲げ、少子化や女性の活躍において縁の下の力持ちとなるイクボスの育成を、精力的に進めている。

DATA  
NPO法人ファザリング・ジャパン  
fathering.jp

### ブース出展していた「株式会社ワーク・ライフバランス」の大畑さんに、ご自身のワークライフバランスについてお話を聞いた。

株式会社ワーク・ライフバランス  
ワーク・ライフバランス  
コンサルタント  
大畑慎護さん



### 妻と家事は半分半分。お互いに必ず同時に別の家事や育児をこなしている、という状況づくりがミソ

27歳の大畑さんは2歳半の息子を持つイクメン。鍼灸師をしている妻の復帰後、妻が仕事に専念してスムーズな復帰をしてもらうために、ほぼ全ての家事と育児を担当して1か月の育休を取得した。

今も、夫婦で家事は分担している。「得意だと思ふ家事をそれぞれ担当しています。妻は料理、私は洗い物・掃除・洗濯のように。好きなことをすることにストレスはかかりませんし、創意工夫もして効率がいいんです」子どもの保育園は、朝送るのは妻、夕方のお迎えは大畑さん、お風呂に入れて寝かしつけるのも大畑さんの仕事だ。「私が子どもを寝かしつけている間、妻は翌日の食事の用意をする、みたいにお互いがどちらも“裏で別の作業をきちんとしている”という、どちらかだけに負担が偏っていない状況を作ることがミソですね」